

# スマート農業導入促進モデル事業【岡山県】

ICT自動給水栓を活用した超省力化水管理モデル事業

## 本県の農業を巡る現状と課題

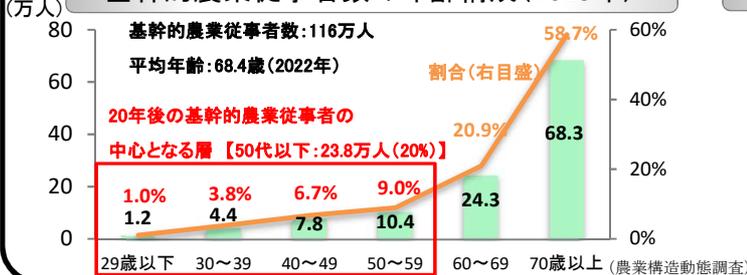
### 現状

- ▶ 今後20年間で、基幹的農業従事者は現在の1/4 (116万人→30万人)程度への減少が見込まれ、岡山県も同様の傾向にある。
- ▶ 労働環境は女性にとって厳しいことから、基幹的農業従事者の女性比率は減少傾向にある。
- ▶ 従来の営農ニーズに見合った区画整理等の生産基盤整備は一定の水準に達している。
- ▶ 営農技術、情報通信技術の進展により、スマート農業の実装が可能となっている。

### 課題

- ▶ 儲かる産業としての農業の確立に向け、農業者の減少下では、従来の農業生産では立ち行かず、生産・維持管理方式の転換が求められる。
- ▶ 農作業の効率化や労力節減による、女性の活躍や、異業種参入等の起爆剤となりうるスマート農業の普及を緊急に進める必要がある。
- ▶ ICTを活用した水管理労力節減は、水路管理者や水利組合等の共同利用者との調整が必要であり、事例が少なく、導入が進んでいない。

基幹的農業従事者数の年齢構成(2023年)



岡山県内のスマート農業組状況(水稲関係: R5)



## スマート農業導入促進モデル事業

### 事業概要

**多様な農業者の参画による水管理超省力化の実践と普及啓発により、導入を促進!**  
水管理組合、法人・通作者・地元農家等の多様な農業者の参画・視点で実践と、現地見学会や研修会により、これからの20年を見据え、スマート農業への生産・維持管理方式の転換を後押しする。

### 事業内容

#### ICT自動給水栓超省力化モデル事業

事業主体: 県

#### 【地域単位でICT水管理を実践】

ICTを活用した水管理は、水利慣行との調整・電波状況等、地域一体で取り組むことで効果があるため各管理者の協力を得て、用水組合単位で、実証ほ場を選定し、実践する。

#### 【多様な農業者による実践】

水管理省力化メリットが異なる、法人・通作者・地元農業者の3者による実践を行う。

- ・法人(雇用主)の視点 → 経営的な視点(コストの観点)
- ・通作者の視点 → 通作する視点(移動時間や遠方監視の観点)
- ・地元農業者の視点 → 「近い」中での視点(酷暑や夜間での健康・安全面等)

#### 普及啓発事業

事業主体: 県

#### 【効果検証】

モデル事業のタイプ別の省力化効果(軽労・安全・節水)を検証

#### 【スマート農業全般の普及啓発】

専門家、先進事例、実践している農業者、コスト軽減に資する補助事業紹介を含めた、スマート農業全般にかかる研修会を、対象を広く実施し、普及を図る。

#### 【モデル事業の現地見学会や効果検証報告会】

設置後の現地見学会実施、効果検証の報告会を、分析結果と実践者の生の声を交えて実施

**技術を最大限活用し、超省力・効率的・安全で、儲かる農業の実現を!**

# スマート農業導入促進モデル事業

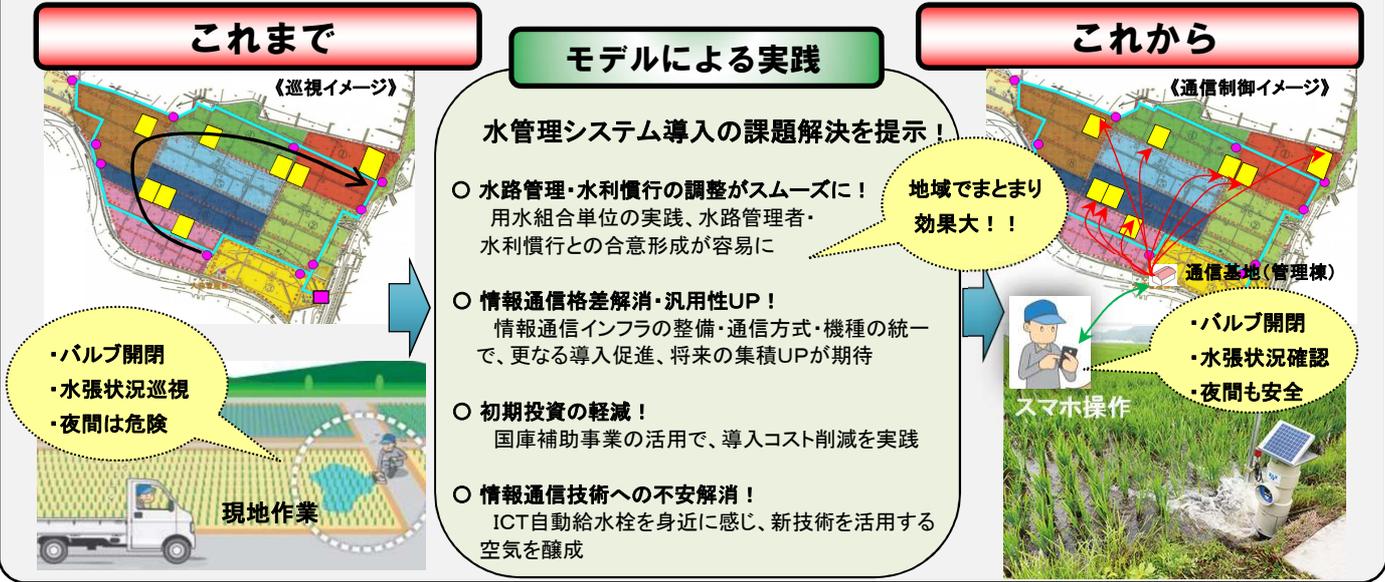
## ICT自動給水栓超省力化モデル事業

- 事業主体：県
- 取組内容：ICT自動給水栓・通信基地整備
- 実施年度：R7～R8
- 実施場所：パイプライン整備済地区  
(県南(R7)、県北(R8) 計2地区)
- 実施規模：10ha程度

## 普及啓発事業

- 事業主体：県
- 取組内容：
  - ①効果検証 受託調査、コンサル委託
  - ②研修会 専門家講演、先進事例・補助事業紹介、モデル事業現地見学会・効果報告会
- 実施年度：R7～R9
- 対象者：市町村、土地改良区、農業団体、普及センター、その他希望する農業者等

## ICT自動給水栓導入のイメージ



## 本事業を契機とした、スマート農業導入後の効果



**労働環境は大幅に改善し、魅力あふれる岡山県農業に！**